

留学生数の推移

長崎留学生支援センターによると、2017年5月時点の県内の大学、短大、日本語学校に在籍する留学生数は1,914人（日本学生支援機構まとめ）、うち大学・短大が1,476人となっている。これに短期留学・秋入学などを含めると2,400人程度とみられる。

大学・短大の留学生について出身国をみると、中国をはじめ韓国、ベトナム、ネパール、台湾など、アジアが大半を占めている（図表1）。とくに中国については、県内大学等の姉妹校・協定校協定先が多く、県内留学生のなかで多数を占めているが、このところ減少傾向を辿っている。一方、増加しているのがベトナムやネパールなどの東南アジアである。

留学生の卒業後の就職状況をみると、16年3月卒225人のうち、県内での就職が26人、日本国内での就職が45人、17年3月卒273人のうち県内30人、日本国内55人となっている。卒業生に占める県内での就職割合は1割ほどであり、住み慣れた長崎を離れ県外に就職している学生も多い。

一方、人手不足を経営課題として挙げる企業が多いなか、留学生を採用対象としている企業はまだ少ない。勿論、留学生を採用する場合には在留資格取得の手続きなどの課題もあるが、学生と企業との接点を増やし双方の理解を深めることで就職につながり、卒業後も活躍している事例も見られるようになってきた。

そこで、今回は、長崎留学生支援センターが開催した留学生と企業との交流会の様子を紹介するとともに、今回から県内企業に就職した留学生の活躍事例をシリーズで採り上げる。

図表1 国別・地域別留学生受入状況
（日本語学校を除く） (人)

	2013	2014	2015	2016	2017
中 国	851	760	711	702	639
韓 国	172	187	180	184	185
ベトナム	97	110	113	141	150
ネパール	34	58	64	68	105
台 湾	31	44	49	60	71
タ イ	22	20	23	26	24
ミャンマー	12	13	20	29	38
そ の 他	142	144	214	202	264
合 計	1,361	1,336	1,374	1,412	1,476

資料：長崎留学生支援センター

長崎留学生支援センター — 留学生と企業との交流会 —

13年2月、産官学（現在は28団体）からなる「長崎留学生支援コンソーシアム」が発足し、その下に「長崎留学生支援センター」が設置された。支援センターでは、留学生の募集、住環境整

備、就職などの支援に取り組んでおり、活動開始から5年余りが経ち、実績を積み重ねている。

この活動の一つに「留学生と企業との交流会」がある。これは、県内企業と留学生が接する機会を増やし相互理解を深めることを目的として14年度から毎年開催しているもので、今回が4回目となる。今年は1月18日に開催し、50名（留学生16名、日本人学生1名、企業・団体33名）が参加した。

このうち、グループディスカッションでは、参加した留学生からは、「留学生を対象とした求人が少ない」、「日本企業への就職活動の期間が長く、その仕組みも理解しづらい」といった意見が出された。一方、企業側からは、「県内には様々な業種の企業があるので、大学で学んできた専門分野とこれから就職後にやりたいことや自身の適性などをよく考え、進路を選択してほしい」などのアドバイスがみられた。

また、就職体験談・就職後の活躍事例として島原半島ジオパーク協議会の楊燕氏（1980年生まれ、上海市出身）が登壇した（写真1）。楊氏は、2006年4月に長崎情報ビジネス専門学校日本語科を経て翌年4月、長崎大学環境科学部に入学。17年4月、長崎大学水産・環境科学総合研究科博士環境科学の学位取得後、長崎で学んだことを活かそうと、ジオパーク協議会に学術専門員として就職。協議会では主に広報・宣伝や地域の児童生徒向けの教育活動などに携わっている。



写真1

旧正月にランタンを飾ることなど中国では失われつつある伝統的な風習が長崎にはまだ残っていることに親近感を抱いた楊氏は、本を読んだりイベントに参加したりするなど努力を惜しまず地域のことを学んできたという。

また、自身の就職活動の経験から、企業には、採用に関して「求人では留学生が応募して良いのか記載されていないことが多いので明記して欲しい」、「留学生は周囲の人と相談する経験が浅いため何でも一人で相談することなく物事を決めてしまう傾向がある。報告・連絡・相談をしやすい職場の環境づくりに努めてもらいたい」と要望した。一方、留学生には、「疑問を持った時には、納得するまで確認すること」、「機会を捉えて多くの日本人と積極的にコミュニケーションすることを心掛けること」などをアドバイスした。

ハローワーク長崎 — 外国人雇用管理アドバイザー —

全国的に外国人労働者が増加傾向にある。そのため厚生労働省は雇用者が適切な雇用管理や労働条件を確保できるよう、外国人雇用管理アドバイザーを都道府県ごとに配置している。このうち、本県では、17年4月、ヤングハローワーク長崎（長崎市川口町）に窓口が設けられた。

窓口には留学生が訪れ、「留学ビザから就労ビザに切り替える際の在留資格の変更」に関する相談のほか、「4月に就職するためには、いつまでに内定をとれば良いのか」、「卒業までに内定がとれなければどのようにすればよいのか」などの相談が寄せられている。法務省入国管理局のデータによると、留学から就業への在留資格の変更では、18種あるビザのなかでも「技術人文国際業務」だけで全体の9割近くに上る。このため、留学期間中に学んできたことと就職後の仕事内容との関連性が説明できなければ在留資格を取得することが困難なことから、不安に思う学生が多いようである。

一方、企業側は小売業やサービス業（主に飲食店）などの業種から、「アルバイトとして勤務している留学生を正社員として採用したいができるのか」、「雇用期間など雇用契約書の内容に関して尋ねたい」などの相談が寄せられ、相談件数も徐々に増加傾向にある。

■留学生の卒業後の就職・採用に関するお問い合わせについては

ヤングハローワーク長崎「留学生コーナー」をご利用ください。

当コーナーでは、留学生（日本語での日常会話ができる日本語能力検定試験N1レベル）の職業相談・紹介他・新規学校卒業者等の求人の受付を行っています。

また、毎週水曜日午後13:00～16:00は予約制による外国人雇用管理アドバイザーによる相談を行っており、日本での就職を希望する留学生、留学生の正社員採用を検討する企業の方からの質問に専門的なアドバイスをいたします。

予約は下記へ

ヤングハローワーク長崎：長崎市川口町13-1 西洋館3F

電話：095（819）9000

開庁時間：10:00～18:30

（土日祝・年末年始・西洋館休館日を除く）

県内企業に就職し活躍する留学生 — 九州教具株式会社 —

県内大学の留学生が卒業後、県内企業に就職し、活躍している事例として、今回は九州教具株式会社（本社：大村市、社長：船橋修一氏 社員数104人）を紹介する。

九州教具株式会社は、事務機販売などのソリューション事業部のほか、県内4つのホテルを運営するホテル事業部などを手掛けている。

このうち、ホテル事業部では、ベルビュー長崎出島を「全館禁煙」としたり、クオーレ長崎駅前に「女性専用フロア」を設けるなど、現場の社員からの提案をボトムアップで採用することによって、全国に先駆けた事業展開をしている。

その背景として、船橋社長は、「バブル崩壊とともに経済の時代は終わり、多様な価値観の文化の時代にパラダイムシフトしており、多様化する価値観や顧客ニーズに対応していかなければ持続性のある企業として生き残ることはできない。女性や外国人のスタッフなど社員全員が知恵を絞り、労働生産性を向上させるよう働き方改革に取り組んでいかなければならない」と語る。

■外国人スタッフの採用

「外国人スタッフの採用」について、船橋社長は「日本人的な考え方は、海外から来られるお客様には通用しない場合がある。日本人の価値観だけで、課題を解決するのではなく、多様な感性や価値観に触れ、受け入れていくことで解決しなくてはならない」という。

外国人スタッフの採用実績をみると、8か国、30人に上る。現在は、ベトナム、アメリカ、バングラディッシュ、韓国、ネパール、南アフリカなど6か国、15人（パート・アルバイト含む）が在籍している。

ただ、外国人スタッフを採用するとなると、面接や試験のあり方を見直したり、就労ビザ取得のための雇用理由書等関係書類の作成と提出、住宅確保の補助・代行などこれまでになかった業務が多数発生することとなった。しかし、船橋社長は、「これまで気づかなかったことや着手前の「見えなかった課題」を「見える化」させ、見えてきた課題を一つ一つ洗い出し乗り越えてきた」という。

そうして課題を乗り越えて得たメリットは大きく、例えば、外国人スタッフは「自分の仕事は何のためにするのか」を考え行動しており、そのことが日本人スタッフの仕事への姿勢にも変化をもたらした。また、外国人スタッフから様々なアイデアを出してもらい成果に結びついている。例えば、中国人スタッフが「中国人のお客様にもホテルを利用してもらえるように」と、それまで日本語版と英語版だけだったホテルのホームページの中国語版を自ら企画・翻訳しており、宿泊客からも好評だという。

また、アメリカ人スタッフが客室清掃マニュアルの英語版を作成し、アルバイトの留学生が見てもわかるようにしたことで、清掃業務の負担軽減が図られた。

■留学生の卒業後の活躍

外国人スタッフのうちの一、リズマンアッサン氏（92年生まれ、バングラディシュ出身）は、16年3月、長崎国際大学人間社会学部国際観光学科を卒業後、九州教具に就職。現在、ホテルウイング・ポート長崎のフロントで勤務している。12年には九州学生テニス大会ダブルスで3位、全日本学生選手権大会にも出場した経験を持つ。

アッサン氏は、ハローワークを通じて就職活動に取り組んだ。そのなかで特に苦労したこととして、高校から日本に留学し日本語の読み書きなどは支障なくできるものの、N3の資格（日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる」とされるレベル）しか取得していなかったことから、就職に際して「書類選考ではアピールできないことが多かった」と振り返る。

大学で学んできたホテル関係を中心に就職活動をしていくうちに、九州教具のホテル事業を知り、船橋社長の海外での留学経験や、留学生の採用実績があることのほか、将来的にスキルアップを積めば、ホテル事業にとどまらず、関連部署にも勤務する可能性があることを知り、興味を持ち応募、就職を決めた。

現在、アッサン氏はフロント業務を担当しており、外国人観光客の接客では堪能な語学と学校で学んだ知識が活かせるため、やりがいを感じているという。

これまで見てきたように、留学生が人手不足対策としてではなく、即戦力として期待されて就職すると、その後のモチベーションにもつながり、成果を挙げていることがうかがわれる。

（泉 猛）

